

**平成25年度
中国四国農政局事後評価技術検討会**
～ 国営土地改良事業等事後評価関係（第1回）～

議 事 録

大木土地改良管理課長

それでは、定刻より早いのですが、皆さまおそろいになりましたので、ただ今から第1回補助事業事後評価に係る中国四国農政局事後評価技術検討会を開催させていただきます。

まずはじめに、本技術検討会開催に当たりましては、原則公開とされておりますことから、先週の12日に、本日開催する旨をプレスリリースするとともに、当局ホームページにも掲載をしました。傍聴等の申し込みはありませんでしたので、ご報告させていただきます。

それでは、開催に当たりまして、事後評価に関する事業管理委員会委員長の細谷農村計画部長より挨拶申し上げます。

細谷農村計画部長

本日は、お忙しいところ、ありがとうございます。

本日は、来年（平成26年）3月に公表を予定しております補助事業6事業種6地区の事後評価結果書案について、ご審議を頂くこととなっております。

本年度は、先だって10月7日に中道委員に畑地帯総合整備事業「川上地区」を現地調査して頂き、10月21日に経営体育成基盤整備事業「求院地区」に池田委員、石丸委員、永井委員長に現地調査を行っていただきました。ありがとうございました。

今日の評価結果書案でございますが、皆さまのご意見を基に、より適正な評価となるように努めてまいります。限られた時間ではございますが、現地を見て頂いた結果も踏まえて頂き、忌憚りの無いご意見を頂きますようよろしくお願いいたします。

大木土地改良管理課長

～技術検討会委員4名の紹介、配布資料の確認、議事進行、会議資料の公開について説明～

永井委員長

技術検討会委員の皆さま、またここに出席の方々の協力を得ながら進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。それでは、早速、議事次第により進めたいと思致します。では議事次第1の平成25年度補助事業事後評価の概要について説明を事務局からお願い致します。

宿野農政調整官

～補助事業事後評価の概要について説明～

永井委員長

ただいまの件について、何か質問はありますか。

無いようでしたら、議事次第2の平成25年度補助事業の事後評価結果案について、各事業担当課から説明をお願いします。

木村水利整備課長

～川上地区について説明～

石丸委員

3（2）営農経費の節減の最後の一文ですが、この共同トイレや休憩施設の設置は効果として、とても良いことなのですが、営農経費の節減とは関係ないので、4（3）事業による波及的効果にもっていった方が良いのではないかと思います。

4（2）で、「農地の整備、安定的な水利システムの維持や・・・」という部分については、見出しなのか。これは見出しとしては長いので、独立した文章にするか、後ろの文章に溶け込ませるかをしないとよく分からない。

木村課長

4（2）は土地改良長期計画の項目なので、それが分かるような形で整理させていただきます。

石丸委員

これは項目か。上の「農業生産性の向上」とかと同じ意味合いの項目だとすると長すぎる。何なのかが良く分からない。

木村課長

もっと短くします。

中道委員

2ページの上の方にある戸当たりの経営面積が（平成7年より22年の方が）増加しているというのは八幡浜市全体の数字なので、川上地区の状況とは違うのですか。

下の表の農産物の栽培面積には温州みかんしかないが、これは現況と評価時点が全然変わっていない。これをどのように考えたらいいかが、よく分からない。

なぜ、このようなことを言うかという、最初の事業目的に、農地の流動化を促進させるという項目が入っているので、八幡浜市全体の109a/戸から148a/戸に増えたというのは流動化しているようにも見える。しかし、下の温州みかんの栽培面積を見ると、現況と計画、評価時点が変わっていないので、どのように考えたらいいのか。つまり、農地の流動化を促進するということまでにはいかなかったと評価していいのか、これをどのように考えたらいいのか。

木村課長

戸当たり経営面積は八幡浜市全体のもので、これだけでは川上地区の状況は分かりませんので、数字を調べさせていただきます。

宿野調整官

上の表のデータは市全体のもので、経営面積の合計を農家数で割り算したもの。下の表の栽培面積は川上地区全体の栽培面積ですので、戸当たりのデータではない。ですから、ここも戸当たりのデータを示せばいいのでしょうか。川上地区のデータが整理できるかどうかは分からない。土地改良区や水管理組合などで把握をしているとは思いますが、確認してみないと分かりません。

中道委員

目的の中に農地の流動化というのが入っていなければ、あまりそんなことは気にならないのですが、文言の中に、農地利用の流動化と書いてあるので、そうするとどうなのかなというのが気になる。

宿野調整官

そこは、担当課の方で確認します。

中道委員

分かった方が、この計画どおりかどうかというのが見えるので、できるだけデータを集めて見せた方がいいのではないのでしょうか。たぶん、流動化していると思うので。

石丸委員

これは意見ですが、今後の課題のところ、生活環境の変化の中でウォーキングを始めたというのがあって、これは面白いなと感じた。確かに写真を見るとすごく景色が良い。これはトイレも出来たのだから、観光につなげることができる環境が出来たし、三原市に佐木島という島があるが、みかんの花が咲くころに、みかんウォーキングとしてやったりしている。愛媛県ではみかんというのは珍しくもないのかもしれないけれど、よその人からしたら印象的な風景だと思うし、香りも併せて、みかんを楽しむような観光につなげるようなことを考えてもらってはどうかといった意見を書いたらいいのではないかと思います。

宿野調整官

本日ご欠席の井上委員から昨日メールで意見を頂いておりますので紹介させていただきます。3（2）の営農経費の節減のところ、データがあればという前置きで、およその頻度（回数）について明記いただくとインパクトがあると思いますというようなご意見を頂いております。

国塩係長

そちらについても調べまして、記載できるようなデータがあれば、記載させていただきます。

永井委員長

主要工事で農業用水施設（スプリンクラー等）とありますけれど、これは工事をする時にはスプリンクラーもつけるのですか。

国塩係長

立ち上がり管とスプリンクラーも老朽化していましたので、その立ち上がり管とスプリンクラーを更新しております。

永井委員長

スプリンクラーも同時にですか。スプリンクラーは農家持ちとかそういうことはないんですか。

宿野調整官

スプリンクラーヘッドまで一緒に更新しております。

池田委員

6. 今後の課題等のところのモノレールですが、この事業では、モノレールの費用は入っていないとのことでしたが、別枠で工事をするということになるのでしょうか。

それと、モノレールに代わる耕作道の整備とありますが、山（みかん園）が急なので道路ではなく、モノレールを整備していると思うのですが、道路の方が効率的だということになるのですか。

国塩係長

モノレールは、今回の事業対象には入っていません。

モノレールは基本的に縦（上下）移動しています。農道は同じ高さ（横方向）に向いて

あまり勾配を付けずに整備します。

この事業では、モノレールの起点（みかん園への入口）までの農道を拡げてあげること
で、モノレールで農道に上げて、そこから選果場までの輸送は軽トラックや1 tトラック
に積み替えるという形で、モノレール自体は今回は事業の対象となっていません。

宿野調整官

補足ですが、モノレールでは、もう一回トラックに積み替えないといけないということ
がありまして、労働時間が増える。また、モノレールはレールの更新をしないとけない
ということで、更新費用が高くなります。やはり、地元としては、できるだけ道路の方が
（経費や作業の面で）効率が良いと地元の方から聞いています。

石丸委員

軽トラックが入れるようなということか。

宿野調整官

軽トラックなのか、運搬車的な道路なのか、それは（地形などの条件によって）いろい
ろとあります。

中道委員

道路の方がはるかに良いのですが、おっしゃったように傾斜地なので、道路をなかなか
つけられない。だけど、作業道が少しでもつけば、積み替えしなくていいので。量もそん
なに一回のモノレールだと運べないので。

池田委員

モノレールは何両か連結して結構運べるようなイメージがあるのですが。

宿野調整官

貨車（台車）が2つ、3つくらいです。

永井委員長

そのほか、ございませんでしょうか。

それでは次の地区に進みたいと思います。次は求院地区の説明をお願いします。

山形農地整備課長

～求院地区の説明～

永井委員長

それでは、ご質問等ありましたら、お願いします。

中道委員

3（2）の営農経費の節減の労働時間のところですが、計画で大型機械の導入によって
生産性の高いほ場に整備するとか、機械の効率的な利用とか書いてありますが、ここの労
働時間の計画と評価時点を比べると、大豆とか大麦は、労働時間が計画よりも多くなっ
ている。機械稼働経費を見ると、こちらも計画より高くなっている。機械の稼働経費とい
うのはガソリン代とかもあるもので、必ずしもいえないのですが、労働時間が計画よりも多
くなっているというのは、何によるのでしょうか。

具体的に見ると、大豆、大麦の作付面積は計画よりもかなり大きくなっているの
で、その辺も関係しているのかもしれませんが、普通は面積が大きくなったら労働時間は減るの
かなと思うのですが。労働時間が増えているのは、思ったよりも大型機械化が進まなかつ
たというふうに何となく読めてしまうのですが、その辺はどうなのでしょう。大型機械

化が進んでいないなら、進んでいないと認めた方がいいので。

山形課長

事業実施前の現況と比べると評価時点は労働時間、機械経費とも縮減されています。これは事業ありせば（事業を実施した場合）の効果だと思えます。一方で、事業計画との数字に対して、下がっているものもあれば、逆に増えているものもあります。これについては、機械の規模・構造、台数などを計画時点と評価時点で比べてみないと分かりません。

中道委員

私が欲しいのはその話です。事業目的に、機械の効率的利用と書いてあるので、あるいは大型機械の導入と書いてあるので、どのくらい大型機械が導入されたのかというのを見せて欲しい。そうするとこの話も見えてくる。

山形課長

規模とか台数とかそのあたりですね。

中道委員

そうすると、思ったより増えたので、小さい機械を使っているところもあるが、大型機械を使っているところもこれくらいありますというのが見えるので、いいのではないでしょうか。

宿野調整官

全てではないのですが、大豆、大麦につきましては、単収が計画以上に多くなっているため、収穫とか調整の時間が余計に掛かっているということが1つの要因としてあります。

中道委員

それが分かるのであれば、そのデータも見せた方がいいですよ。大型機械化は進んだんだけど、別の労働時間がかかっているというところを。でない労働時間が減って、他のところに労働がいくはずだったのになってしまう。

宿野調整官

そのあたりの書きぶりは、事業担当課と相談させていただきます。

石丸委員

現地を回って印象的だったことの一つは、耕作放棄地がなかったのがびっくりした。それを記載しているのが4（2）で、本地区内において耕作放棄地は発生していないと書いてあるんですが、この文章の最初におどう団地ではと限定してあるので、この限定の中で書かないで、その地区全体で独立して書いた方がいいのではないかなという気がしたのと、もう一つは、農地集積が計画以上に進んでいるのが何故かというのが味噌というか、面白いなと思ったのは、はっきりとは覚えていませんが、あそこは集落が10いくつかあった、それまでは用水の使い方の習慣が違って、農地集積もこの地区と他の地区との用水のタイミングが全然違うと、それで集積が進まなかったと言っていた。それが、この事業によって均された。そういう水争いとか農村文化みたいなものを変えたということが、事業効果をより大きくしたところが味噌だし、他のところの参考になるんだろうと思いますので、書いた方がいいのではないかなと私は思いました。現地に行ってそこが面白いなと思いました。

山形課長

4（2）の耕作放棄地については、地区全体の話ですので、おどう団地とは切り離して書かさせていただきます。

農地の集積に関しては、今、先生がおっしゃっておられたとおり、現況では個々の水利組合の中で、個々の水利用のルールがありました。その中で、生産活動が行われていました。それが事業実施によって地区が拡大するとともに、地区一本の水利用のルールが敷かれています。それで、生産活動に係るルールが敷かれ、ひいては農地集積につながったということです。是非、そのあたりは模範例にもなりますので、触れさせて頂きたいと思っています。

池田委員

3（2）のところで、たまねぎ、キャベツの話がでてきますが、3（1）でたまねぎとキャベツは、作業労力が大きく作付面積が減少したと書いてあり、（2）では適期作業が可能となり、営農経費の節減と生産性の向上につながっていると評価されている。それにしても、（1）では作付面積も生産量もかなり減っているのに、あえて、ここでたまねぎ、キャベツを評価するのはどういうことでしょうか。

4（1）でもキャベツ、たまねぎに加え、なたね及びはとむぎを新たに導入とあり、加えとなっていますが、キャベツとたまねぎの落ち込みをなたね、はとむぎで代替したのではないかというふうに数字上は取れるのですが。このたまねぎ、キャベツの評価はいかなのでしょうか。

中道委員

私はデータしか見ていないので、難しいですが、少なくとも作付面積はそんなに減りはしていません。計画はもっと伸ばそうと思ったけど。それで、たまねぎやキャベツがものすごく減ったかという、計画は違う方向にいったということなので、確かにあまり評価しすぎるのは良くないけれど、私はこれでいいかという気はしたんですけれど。ただ、たまねぎ、キャベツを計画時点で目指していたことは目指していた。それがうまく意図した方向には行かなかったということなんですよね。だから、省力化というのにたまねぎやキャベツといった省力化ではなくて、別の作物の省力化にってしまったというのが、どうも実態のようではないか。

山形課長

新たに導入した作物を栽培しますと、作付面積が変わりますので、そのしわ寄せがたまねぎ、キャベツの方にいったという現実がございますけれど、事業を実施しまして新たに作物生産する中で、浮いた労働力というのが発生してまいります。これが、逆にたまねぎやキャベツの方に回せたという、ちょっとなかなか説明が難しいのですが、このあたりはもう一度表現を見直しさせていただきます。

宿野調整官

キャベツ、たまねぎも減っているのですが、計画で見込んでいたなすや葉たばこ、さといもが全くなくなってしまっていますので、表現ぶりを検討させて頂きたいと思います。

石丸委員

現地調査の帰りのバスの中の池田委員との話で、最後の今後の課題のところ直売所について書いてありますが、そこに飛行場の跡地があって、あんなに広いんだから、ここが場所としていいんじゃないのという話があったので、提案というか意見ですが、その跡地を利用してもいいのではと書いてもいいのではないのでしょうか。

宿野調整官

出西訓練場というのがあるんです。今は国から県か市に払い下げをされて空き地状態です。道路も隣接して通っていますので、便利はいいところだとは思いますが、所有者が活用方法を検討されていると思います。

ちょっとそこまでの言及は難しいと思います。

中道委員

先ほどの石丸委員が話をしていた集落を超えた水利用というのはすごく重要な点なので、そこはしっかりと書いていただいた方がいいと思います。

永井委員長

それでは、次の地区に移りたいと思います。

山形課長

～明神地区の説明～

永井委員長

明神地区につきまして、何かご意見・ご質問等ございましたら、お願いします。

中道委員

4（2）のところに、世羅高原6次産業ネットワークを設立したと書いてあるんですけど、多分、これがすごく重要なポイントだろうと思うんですね。フルーツロードと併せて、伸びてきた基幹道路になった。そこで、6次産業化を進めようということになっているんだろうと思うのですが、世羅高原6次産業ネットワークというのが、この事業をきっかけに設立されたように文書を見ると読めるが、多分、そんなことはないですよ。

宿野調整官

そんなことはないです。

中道委員

ということであれば、書き方が変だということと、この道路に関連する農家がどれくらい世羅高原6次産業ネットワークに入っていたかというのが分かると、この評価が見えやすいのですが。少なくとも観光農業をやっているような人は入っているのだと思いますが。

宿野調整官

6次産業ネットワークは、個人農家ではなくて、観光農園をやっている法人の方、行政、JA、関係機関等で組織されています。

中道委員

これだけだと分かりづらいですよ。どういう人が恩恵を受けているかというのが。6次産業ネットワークに関係しない人はそれほど恩恵を受けているのかというふうにも見える。

宿野調整官

観光農業という面からは、この6次産業ネットワークの方々がかなり恩恵を受けていると思います。ただ、その他の農産物、例えば米とかですね、観光に関係のない農業をやっている方も輸送経路とかの面で非常に恩恵を受けていると思います。

中道委員

6次産業ネットワークというのをここに出しているの、出来ればそれに関係する農家さんが分かるようなデータが欲しいと思うのですが。

宿野調整官

6次産業ネットワークの構成員みたいなものでしょうか。

中道委員

でもいいですよ。ここに関係する人がどれくらいいるかとか、あるいは、グループでもいいんですが、それはここに入っているということで恩恵を受けている。入込数を見せてもらっても、ここに関するものだけではないので。この人達がこの道路を利用することによって、どういう恩恵を受けたのかということが重要なんですよ。農家の直売所グループの売上げがこれくらい伸びたとかという話なら非常に分かりやすいのですが。この道路を作ることによって、とにかく何の効果があったかということをごここでは言わないといけないので。

宿野調整官

切り出しが出来るかどうか、検討してみます。

石丸委員

世羅というと果物と花というイメージがあるのですが。花とかは入っていないんでしょうか。そちらの方が効果が大きいと思うのですが、世羅西はあまりないんでしょうか。

宿野調整官

6次産業ネットワークもまさに果物と花なのですが。

細谷部長

図面に位置関係がありますが、世羅高原の中のこの部分だけです。

石丸委員

この道路と観光は関係ないのでしょうか。

宿野調整官

関係はあります。当然、この道路を通っています。広島市などからのお客さんもそこを通過して来られます。

石丸委員

この道路を使って運ぶのには、あまり関係ないということか。

宿野調整官

この道路だけの効果を切り取って出すということを費用対効果の中ではやっていますので、データの的には（輸送ルートが比較的はっきりとしている）米などが中心となってきます。

石丸委員

それなら、いいです。

宿野調整官

ただ、世羅地区広域農道と一本の路線として見れば、おっしゃるように花とか果物とかにも恩恵は発揮されていると思います。

石丸委員

それらの効果を切り捨てているのは勿体ないような気がするだけの話です。

宿野調整官

先ほどの畑地帯総合整備事業の川上地区と同じ様に、井上委員から輸送の回数（頻度）

を記載できないかというご意見を頂いてます。これにつきましても、データを確認してみまして、記載できるかどうかも含めて検討させていただきます。

永井委員長

それでは、次の地区に移ります。

田中地域整備課長

～八代地区の説明～

永井委員長

それでは、ご意見等ございましたら、お願いします。

池田委員

6. 今後の課題等の未接続世帯が3割についてですが、この3割による悪臭とかの影響は大きいのかどうか。

この今後の課題等から見ると、接続率が悪いのは空き家が原因と読めますが、うちの実家の方でも、何年か前にやっと下水道が整備されたのですが、歳を取ると、もう先が短いから大金を出してまで水洗化はいいやとか、田舎はとかく敷地面積が広くて、本管から自分の家のトイレまでの距離が長いと工事費（個人負担）がものすごくかかるとか、この場合はどうかしりませんが、庭に降った雨も下水道に流れるから、これらの処理も下水道料金に含めて取られるとか余計な負担はいいやということで、普及が遅れるのではないかと思います。いつだったか、江津市の例でもこのような話があったように思いますが、市の補助とかは考えられないのでしょうか。まずは空き家を埋めるような対策でいくのか。せっかくツルが来るようなところですので、100%にして、完全下水にというようなことは難しいのでしょうか。

田中課長

未接続世帯について、完全補助にするということは、従前につなぎ込みをしたところとの差が出てきますので、それはなかなか難しいのかなと思いますが、といっても施策はいろいろ講じていかないとけないと思います。

3割未接続の悪臭の影響というのは、ないとは言いませんけれど。詳細は確認してみないと何とも言えません。

あと、下水道料金については、集落排水は一般には雨水排水というのは排除（流入しないように）していたかと思います。集排というのは規模的に大きなものは作れません。

池田委員

そもそも、街中の下水道整備とは違うということですか。

中道委員

今に関連して、3割というのは多分、接続していないということは、し尿の収集車というのが来ているんですよね。それとも、自分のところで、合併処理浄化槽で処理しているのか、どちらなのでしょう。し尿収集車が来ているとしたら、市町村がいくらぐらいまでが効率よくやれるのかの分かれ目で、これ以上になったら逆に収集する方が高くつくので、処理をしてもらった方が良いという話になるので、お金が出てくるかなという感じもあるんですけど。合併処理で済むならば、合併処理浄化槽にすればいいし、今、先生がおっしゃっていたような下水道まで持っていくのか、どちらかの対策を少しは立てた方が良く言った方が良いのではないのでしょうか。ただ接続しなさいというのではなくて、ちょっと課題としてあげるなら、何か具体的に解決することが出来るような手段を考えて解決策を書きなさいというのが私の希望です。

石丸委員

接続率向上ではなくて、水洗化率向上とすれば良いのではないか。

田中課長

計画時点で、集落排水処理の範囲に入った家屋だと思しますので、合併処理浄化槽を整備するというのはちょっと難しいかなという感じがします。

中道委員

それは、自分でやればいいのだから。お金がどちらがかかるのかと考えて。

宿野調整官

基本的には自治体で、家と家との間隔などを考慮して、ここは公共下水でやりますとか、集排でやりますとか、合併処理でやりますとか、大きなエリア分けは出来ているので、この地区は合併処理浄化槽よりは集排でやった方が効率が良いというエリアに入っているはずです。

中には先生がおっしゃるように、集排の整備が待てずに、自分で合併処理浄化槽を付けている方もいるかもしれませんが、基本的には汲み取りだと思います。

中道委員

そうすると、3割というのがどのくらいのレベルにあるのかという話ですよ。ちょうど分かれ目なのか。

宿野調整官

3割の方々の中には若い人もいるかもしれませんが、高齢者の方がほとんどだと思いますので、人口割合に比べて、排出量としては少ないんだと思います。

中道委員

では、それは仕方がないとして、4（3）②のつるの里米の話なんですけれど、これは地域活性化に入っていますが、経済効果としてもあるのではないですか。つまり、今までのお米の値段ではなくて、つるの里米としてブランド化して売れるようになった訳だけら、これが出来て、ブランド米として売れるようになったので、むしろ経済効果として考えた方がいいんじゃないでしょうか。普通の値段でしか売れなかったお米が高い値段で売れるようになっている訳ですから。どれくらいのお米の量をどれくらいの高値で売れているのか、そういう経済効果ははっきりしていると思うのですが、聞けばすぐ分かるのではないですか。

宿野調整官

つるの里米については、昔からこの地域にはツルが飛来してきていますので、ブランド化についてはそちらの影響が大きいと思います。ツルが来ているということ自体がブランド化に大きく影響しています。

中道委員

水質浄化はあまり関係ない。

宿野調整官

環境を整えるという意味では、貢献はしていると思いますが、直接効果としては採れないと思います。

中道委員

経済効果としては採れない。

宿野調整官

採れないと思っています。

細谷部長

ツルの保護は、例えば、電柱を地中化して無くしていますし、環境配慮は別のほ場整備事業の効果もありますので、単純にそれだけではちょっと計上できません。

永井委員長

それでは他にございませんでしょうか。
なければ次の地区に。

田中課長

～椿東部地区の説明～

永井委員長

椿東部地区について、ご意見・ご質問等がございましたら、よろしくお願いたします。

石丸委員

3（2）で水田1区画当たり面積は参考となっていますが、参考でなくて良いのではないのでしょうか。

そのページの最後のところで、耕作放棄地が発生しないというのは良いと思うんですけど、地域農業の動向では耕地面積が3割くらい減っていますが、そうすると耕作放棄地で減ったという風に考えられますが、耕作放棄地が発生していないところの整合性が良いのかなと思いました。

最後の今後の課題に鳥獣被害が唐突に現れていますが、前段に被害がどれくらいあったかの前振りがないと、なんで課題として急に言えるのかなと、これだけ何で鳥獣被害が出てくるのかがよく分からない。

宿野調整官

水田1区画当たりの面積の参考については、この参考は修正する方向で検討します。

石丸委員

参考では弱い感じがします。データのちょっと弱いのか。

宿野調整官

このデータは事業計画書なり、県に確認したデータですので、データとしては的確なデータを記載しています。

宿野調整官

耕作放棄地については、耕地面積が3割減少しているのは、阿南市全体の面積ですので、おっしゃるとおり耕作放棄地や転用等があります。この耕作放棄地が発生していないところは椿東部地区に限ってはということです。このほ場整備を実施したエリアについては、耕作放棄地は発生していないということです。

石丸委員

耕地面積もあまり減ってはいないのでしょうか。

宿野調整官

道路、水路がよくなっていますので、その分だけは事業によって減ってはいませんが、

田んぼになっているところはちゃんと耕しているということです。

永井委員長

これは耕作放棄地はないということですか。新たな耕作放棄地は発生していないとありますが。

宿野調整官

事業をやったところについては耕作放棄地はありませんということです。

田中課長

地区内では水稻の作付面積が若干減となっているが、小麦の作付けがあり合計面積はほぼ変わらない。鳥獣害被害の状況については確認したい。

中道委員

計画のところで、先ほども言ったように農地流動化が上げられているが、農地流動化が分かるような書き方は何かないのでしょうか。

宿野調整官

実際のところは、人・農地プランのところで進めている途上なので、高齢化もあり、多少農家は減っていますが、あまり流動化は進んでいません。

中道委員

土地は拡大したけれど、あまり流動化は進んでないということか。

宿野調整官

そうです。

中道委員

それと、ここに大型農業機械の導入が可能となりとありますけれど、可能となりと導入されたでは違いますが、これも可能で導入されていないということか。

宿野調整官

あまり導入されていないという状況です。

中道委員

まさに、それは課題なんですね。分かりました。

永井委員長

他にございますか。

それでは、次の地区に進ませていただきます。

小野寺防災課長

～山奈地区の説明～

永井委員長

それでは、山奈地区につきまして、ご意見・ご質問等ございましたら、お願いします。

中道委員

事業目的のところは、誰が書いたのでしょうか。

宿野調整官

これは事業計画からの抜粋です。

中道委員

この2行目に書かれていますが、近年の急速な都市化による排水量の増加で湛水する訳ではないですよ。この文章変ですよ。

基本的に四万十川の水位がものすごく上下するのは、山がちゃんと手入れされていないということが言われていますが。湛水するのは都市化の話ではないのではないかと。

宿野調整官

これは川の水が受益地の中に入ってくるのではなくて、中に降った雨が溜まってということなので、この表現で合っていると思うのですが。

四万十川や中筋川の水位が上昇して、それが、このエリアに入ってくるのではないんです。その地域に降った雨の排水ができないということです。

小野寺課長

地図を見て頂くと、中筋川と山田川に囲まれた地域であります。この流域の水が吐けないということです。

中道委員

流入する問題ではなくて、雨が降っても川から溢れて入ってくるということはないということですか。

小野寺課長

低平地なものですから、河川の水位が上がると、なかなか水が吐けないということです。

中道委員

意味が分からないんですが、排水が増えてということか。

宿野調整官

家が建つと、家の周りも道路で、コンクリートやアスファルトで固められてしまうので、水が地面に浸み込まないため、同じ雨でもどっと水が出てきてしまいます。

中道委員

そういう意味ですか。

石丸委員

本当は道路を作ったところが、お礼を言ってもいいぐらい。

石丸委員

平成2年の大雨の時には人畜には影響はなかったのですか。

小野寺課長

人的な被害はなかったと聞いています。

中道委員

すごく意味は分かるのですが、この事業を農水がするのはすごく変な気がする。川の水が溢れている、自然災害というのなら話は分かるのですが、自然災害ではないという話ですよ。

永井委員長

3(2)では農業被害が5億円ぐらい出たとありますが、費用対効果を見てみるとそこまで見ていないようですが、どうなのでしょう。

宿野調整官

効果説明資料の災害防止効果の表の中で、被害軽減額に5億8千2百万円が入っていますが、これは耐用年数で還元しますので、1年の効果とするとかなり額が下がってきます。

永井委員長

4(1)②で被害状況とありますが、平成23年に時間雨量82mmで被害なしとありますが、これ本当なんですか。都市化が進んでいて、これくらいの雨が降ると浸水するはずなんですけれど。全然被害がないという書き方になっています。

宿野調整官

被害はなかったというふうに聞いています。

永井委員長

ポンプの能力を見てもそれほど大きくはない。6 m³/s というと、1時間雨量にして6 mmとか7 mmのレベルなんですよね。だから、雨に比べて、それがどうなのかなど。

末吉事業計画課長

おそらく10月は既に稲刈りをしていて、田んぼに水がないので、いくら溜まっても大丈夫だろうと、7月は30cmくらい溜まっても、稲なので、農業被害という意味ではなかったのかと思われます。

永井委員長

確認してもらって、被害がなかったと言われれば、仕方がないですが。

宿野調整官

考えられるのは、農水の事業と併せて、都市側も多少、排水路を整備したということも考えられますが、その状況は未確認です。

中道委員

今の私の疑問も含めてだけれど、聞いてもらえるといいかもしれない。つまり、農水だけの仕事ではないでしょうと。そうじゃない側もきちんと対策を取っていたかどうかということと一緒に載せていただくと分かりやすいかもしれない。

宿野調整官

そこは確認させていただきます。

中道委員

あと、今の話を聞いて思ったのですが、オクラとか他の作物を作れというけれど、米だから排水が少々うまくいなくても、品質が低いのが少し増えた程度で済んだのかもしれないので、ひょっとしたら他の作物に変えないというのは農家の人の知恵かもしれないですね。これはやっぱり他のものを作ったら駄目かなという。

宿野調整官

おそらく、土地の条件はほぼ整ったんだと思いますが、昔からこういった浸水被害を受ける地区なので、そういった作物を作るという風習がないんだと思います。

永井委員長

ここは浸水の常襲地帯だったと思います。

宿野調整官

それで、新しい人が入ってくるとかでもない、なかなか畑作物に手を出すというのは心情的にできないのではないかと思います。

永井委員長

他に何かありますでしょうか。今日説明のありました他の地区についても結構ですけど、質問等ございませんでしょうか。

池田委員

そもそも論で恐縮ですが、私は事業評価技術検討委員になって今回で2年目に入るので、評価地区の選定について、アンケート回答結果から、事業実施主体の協力が得られる地区を対象に選定とありましたが、調査を進めるに当たって、事業実施主体の協力が得られないと当然進められないという事情は分かるんですが、これでは協力が得られる、すなわち、成功事例が必ず選ばれることになるのではないのでしょうか。失敗事例であれば協力が得られないので、調査対象にならない。農政局の方で指名で調査するという訳にはいかないのでしょうか。調整して地区を選定するものなんでしょうか。だから、過去1年間においては、これはまずいよといった地区は全くなかった。協力が得られる地区だけでいいのかといった疑問を、本日説明を受けて、改めて感じました。

宿野調整官

事後評価につきましては、農水省の政策評価そのものは、国の政策評価法にのっとってやっているのですが、事後評価自体については農水省独自の取り組みでして、法律で縛られていないところです。それと予算措置がされていないということで、実施の前提条件に事業主体の協力が得られる地区についてと事後評価実施要領に明記されています。

青山設計課長

参考までに、各県でも同じように評価を行う組織を持ってしまして、基本的に県営事業であれば、それぞれの県で評価されているはずですよ。

私どものやる事後評価とタイミングが合わないということもありますので、同じタイミングでやっていたら、県のデータを頂くこともあると思いますが、協力して頂けるのとそうでないところがあるのかもしれませんが、県は県で、このような評価を外部の方に入ってもらってやっていますので、もちろんなかなか上手くいかないところもあるかとは思いますが、評価自体は、ちゃんとカバーされていると理解しています。

池田委員

つまり、先ほど説明のあったように立ち入り調査権があるような評価ではないということですか。

宿野調整官

そうです。

永井委員長

その他に何かございますか。ちょっと1つお聞きしたいんですけど、広島県世羅町の明神地区ですが、確かあそこはB/Cが2.45とかで高かったと思うんですが、あれが他の地区に比べて、こういう取り組みをしたから良かったというような何か参考になるようなことはないのでしょうか。

宿野調整官

農道という他の地区とは違う工種なので、特にこういう結果になったと思いますが、内容を確認しまして、後日、ご説明させていただきたいと思います。

永井委員長

他にご意見はございませんでしょうか。

それでは、他にご意見が無いようでしたら、議事次第3につきまして事務局からその他について説明をお願いします。

宿野調整官

特にございません。

永井委員長

今後の日程等はよろしいですか。

宿野調整官

最初にスケジュール等でご説明したとおりですので、特にはございません。

永井委員長

それでは、本日予定されておりました議事が全て終了しましたので、議事進行を事務局にお返しします。

大木課長

永井委員長進行大変お疲れ様でした。委員の皆さまには、貴重なご意見を賜りまして誠にありがとうございました。

本検討会の議事録について、事務局で取りまとめ、各委員の確認を頂いた上で、当局ホームページになるべく速やかに掲載する予定としておりますので、ご了承頂きたいと思っております。

本日は、タイトな時間の中で、たくさんの内容をこなして頂きまして、ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、平成25年度補助事業に係る事後評価技術検討会を閉会させて頂きます。大変ありがとうございました。

(参考)

中国四国農政局事後評価技術検討会の概要

1 日時

平成25年11月21日（木）14:00～16:00

2 場所

岡山地方合同庁舎 1階 第1会議室

3 出席者

【技術検討会】

池田 賀津彦	公益社団法人中国地方総合研究センター常務理事
石丸 賢	中国新聞社論説委員
永井 明博	国立大学法人岡山大学大学院環境学研究科教授（委員長）
中道 仁美	国立大学法人愛媛大学農学部准教授

【中国四国農政局国営等事業管理委員会】

細谷 裕士	農村計画部長
西田 宏	生産部長
須田 直也	整備部次長
野村 享司	生産部生産振興課長
藪内 敏行	農村計画部農村振興課長
大木 昭一	農村計画部土地改良管理課長
勝部 剛	農村計画部資源課長
末吉 修	農村計画部事業計画課長
青山 健治	整備部設計課長
木村 敬	整備部水利整備課長
山形 幸	整備部農地整備課長
田中 繁世	整備部地域整備課長
小野寺 晃宏	整備部防災課防災係長

【事務局等】

國塩 正明	整備部水利整備課補助事業係長
上岡 雅司	整備部地域整備課山村振興係長
津郷 和英	整備部地域整備課集落排水係長
宿野 富義	農村計画部土地改良管理課農政調整官（開発）
浅野 弘幸	農村計画部土地改良管理課事業効果係長

4 提出資料

- ・議事次第
- ・出席者名簿、座席表
- ・資料1 補助事業事後評価の概要
- ・資料2 平成25年度農業農村整備等補助事業事後評価地区別結果書（案）

注）中国四国農政局行政情報閲覧室（岡山第2合同庁舎4F）において閲覧できます。